

「21 世紀の市民社会をともに創りあげていくための場として」

人類社会の文明システムは、いまや巨大な地殻変動を経験しつつあります。人類社会にとってもっとも必要なことは、この地殻変動の本質をしっかりと見きわめ、新たな社会運営のスキルを発見し、創造していくことではないでしょうか。いうまでもなく「いうは易く行うは難し」です。新たな社会運営のスキルといったところで、まだその輪郭が明確につかめている人は誰もいません。

しかしながら、たとえその明確な輪郭がつかめなくても、幾許かのヒント、発端を与えてくれる「方向性」のようなものは、われわれの誰しもが実感しているのではないのでしょうか。そのような「方向性」を私たちは<社会デザイン>の用語で表現したいと考えました。

それでは<社会デザイン>とは、どのような内容もちうるものなのでしょう。私たちが示している考え方を示しておきたいと思えます。

デザインとは、「世界の象徴構造」を意味します。しかし、これはデザインの静的な定義でしかありません。デザインには、もうひとつ動的な定義が可能であり、それは理念なり、モデルなりをデザイン（構築）することを意味します。したがって、<社会デザイン>とは、社会の深層を規定する象徴構造を<デザイン>と捉え、その構造を研究するとともに、現実社会のパラダイム変換を促し、新しい規範、行動様式を追求するダイナミックな営みに他なりません。21 世紀に入った人類社会は、いままさに、このようなダイナミックな営みを必要としているのではないのでしょうか。

立教大学大学院学則第一条は、「本大学院は、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、専門の学術を研究し、その深奥を深め、かつキリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とする」と規定しています。このような目的をもつ立教大学大学院にとって、ここで述べたようなダイナミックな営みである<社会デザイン>を、大学院という研究教育の場で新しい知として統合し、社会に還元していくことは、社会構造の変化に対応することを可能にする高度な専門知識を求める社会の要請に応えるものであり、また大学院としての社会的な使命のひとつであるといっても過言ではありません。これが、「21 世紀社会デザイン研究科」の出発理念であると考えます。

「21 世紀社会デザイン研究科」では、「ネットワーク」、「非営利組織の運営」そして「危機管理」を研究教育上のキーワードとしています。こうした内容をもつ大学院は、日本ではじめてのものではないかと考えます。私はさきほど、「現実社会のパラダイム変換を促し、新しい規範、行動様式を追求する」と述べました。しかし、そこで

大切なことは、何のためのパラダイム変換であり、どのような規範，行動様式を追求するのか，ということろざしの有無であります。言いかえれば本研究科が、その研究教育活動の中で率先して追求すべきものとは、単なる社会運営上のスキルの修得ではなく、人権意識に裏付けられた真に共生的な社会を創成するために必要な理念と知識と技術の明確化であり、そして、そうした理念と知識と技術の修得でなければならぬと考えます。どうかこのことを忘れないで下さい。そして、みなさんのひとり一人が、21世紀社会をダイナミックに創造し、困難と渡り合い、生き抜いていくために必要とされる強靱で、柔軟な力を磨いて行って欲しいと私は念願します。

21世紀社会デザイン研究科委員長 北山晴一